

# 海軍公報 (部内限) 第四千三百三十七號

昭和十八年三月十一日(木)  
海軍大臣官房

## ○ 通 牒

經豫第三號ノ四三

昭和十八年三月十日

海軍省 經理局長

關係各支出官殿

支拂豫算ニ關スル件通牒

昭和十七年度一般會計支拂豫算ニシテ増額又ハ減額ヲ要スルモノハ整理ノ都合上四月十五日迄ニ必ズ當局ニ到達スル様請求書提出相成度

## ○ 辭 令

海軍大佐 石原 聿

海軍中佐 岡野千代喜

同 宮崎 勳

海軍少佐 壹岐 密

(各通)

海軍軍醫少佐 小島 敏夫  
昭和十七年度海軍豫備生徒教育査閲官附ヲ命ス(陸海軍省)

海軍中佐 岡戸 靖彦  
恩賜研學資金受賞者餘衡常置委員ヲ命ス

防備關係調査研究委員會第一分科會委員ヲ命ス(陸海軍省)

## ○ 判 決

判 決

海軍公報(部内限) 第四千三百三十七號 昭和十八年三月十一日

海軍公報(部内限) 第四千三百三十七號 昭和十八年三月十一日

三三八

○ 雜 款

○本日普通公報發行セズ

# 海軍公報

(部内限)第四千三百三十八號

昭和十八年三月十二日(金)

海軍大臣官房

## ○令 達

官房艦機密第一一五三號  
 當分ノ間兵器經理規程第十一條及第十二條第三號ノ規  
 定ニ依ル兵器(海軍航空本部系ノモノヲ除ク)ノ供給  
 及貸與ニ關シ左ノ通定ム

昭和十八年三月十一日

海軍大臣

一 兵器經理規程第十一條ノ規定ニ依ル舞鶴海軍軍需  
 部ノ所管ニ左ノ各部ヲ加ヘ吳海軍軍需部ノ所管ヨリ  
 之ヲ除ク

(イ) 大阪警備府司令部及同府ニ屬スル部隊並ニ之ニ  
 本籍ヲ置ク特務艇等

(ロ) 大阪府、兵庫縣、奈良縣及和歌山縣所在ノ部隊  
 二 同規程第十二條第三號ノ規定ニ依ル未成艦船又ハ  
 部隊ニ對スル舞鶴海軍軍需部ノ所管ニ左ノ府縣所在  
 ノモノヲ加ヘ吳海軍軍需部ノ所管ヨリ之ヲ除ク

## ○通 牒

大阪府、兵庫縣、奈良縣、和歌山縣  
 三 本令施行ノ時期ハ概ネ昭和十八年四月一日トシ共  
 ノ細目等ニ關シテハ海軍艦政本部長ヲシテ別ニ之ヲ  
 定メシム

艦本機密第一三號ノ三一〇五

官房艦機密第一一五三號ニ依ル海軍軍需部ノ兵器ノ供  
 給及貸與ニ關スル所管ノ一部變更ニ伴フ施行時期及細  
 目ニ關シ左ノ通定ム

昭和十八年三月十一日

海軍艦政本部長

一 施行時期

(イ) 第一號ニ對シテハ昭和十八年四月一日トス  
 (ロ) 第二號ニ對シテハ左ノ通トス  
 (一) 艦船 昭和十八年四月一日以降進水豫定ノモ  
 ノ及第百三十號艦(昭和十八年艦本機

海軍公報(部内限)第四千三百三十八號 昭和十八年三月十二日

二三〇

密第一一號ノ二〇〇ノ二新造艦艇工事  
豫定表參照)

(二) 部隊 同年四月一日以降開隊豫定ノモノ

二 兵器搭載豫定表(既發布ノモノニシテ所管變更ニ  
伴フモノ)

(イ) 舞鶴海軍軍需部ニ要スル部數ハ吳海軍軍需部ニ  
於テ取纏メノ上成ルベク速ニ之ヲ送付スルモノト  
ス

(ロ) 在庫先中「吳海軍軍需部」下指定ノモノハ總テ  
之ヲ「舞鶴海軍軍需部」ニ改ム

三 既註文所要兵器

(イ) 納庫濟兵器(昭和十八年三月二十日現在トシ發  
送中ノモノヲ含ム)ハ吳海軍軍需部ヨリノ通知ヲ  
俟テ舞鶴海軍軍需部へ保管轉換ノコトトシ現品ノ  
授受ニ關シテハ兩海軍軍需部間ニ於テ協議ノ上適  
宜之ヲ處理ス

(ロ) 未納入兵器(吳海軍軍需部納ノモノニシテイ項  
以外ノモノ)ニ對スル現納入先ハ特ニ指示スルモ  
ノノ外其ノ儘トシ保管轉換通牒ニ依リ之ヲ處理ス

四 其ノ他

各事項ニ關聯シ新所管海軍軍需部トシテ必要且參考

トナルベキ調査事項等ハ適宜送付スルモノトス

○ 懲 罰

懲罰言渡書

○ 雜 款

○司令旗掲揚  
第二十四驅潛隊司令旗ヲ第三十八號驅潛艇ニ掲揚セリ

○司令潜水艦變更  
第七潜水隊司令ハ三月五日司令潜水艦ヲ伊號第七潜水艦ニ變更セリ

○事務開始

厚木海軍航空隊(假稱)設立準備事務ハ三月一日ヨリ相模野海軍航空隊内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○事務所名變更  
鹿兒島縣出水郡出水町海軍市村大佐事務所ハ海軍美濃部大佐事務所ト改ム  
(出水海軍航空隊設立準備委員事務所)

海軍公報(部内限)第四千三百三十八號 昭和十八年三月十二日

二三二

海軍公報(部内限)第四千三百三十九號

昭和十八年三月十三日(土)  
海軍大臣官房

○通牒

官房備機密第七號ノ一一

昭和十八年三月十二日

海軍省副官

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

内令提  
要登載

昭和十七年官房機密第一二八〇號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規申左記ノ通改メラレ候

記

附録所在地區別符表(其ノ四)中「スンバ島」セ參七

「ロンボック島」セ參八」ヲ加フ

同 部隊區別符表(其ノ一)中末尾ニ「第十二港務部

ウ貳四參」第十四魚雷調整班」ウ貳四四」ヲ加フ

同(其ノ四)中末尾ニ「第十五魚雷調整班」セ七七

ヲ加フ

官房備機密第七號ノ一一

昭和十八年三月十二日

海軍省副官

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

内令提  
要登載

昭和十七年官房機密第一二八〇號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規申左記ノ通改メラレ候

記

附録所在地區別符表(其ノ四)中「バボ」セ四貳」ヲ

加フ

同 部隊區別符表(其ノ一)中「第三軍用電信所」ウ

壹〇參」第七軍用電信所」ウ壹〇五」第三十一同

ウ壹〇六」第五十一同」ウ壹〇七」ヲ削ル

同(其ノ二)中「第三十一特別根據地隊」テ貳壹」ヲ

「第三十一警備隊」テ貳壹」ニ改ム

同(其ノ四)中「第十三軍用電信所」セ五五」ヲ削リ

末尾ニ「調査隊」セ七八」ヲ加フ

海軍公報(部内限)第四千三百三十九號 昭和十八年三月十三日

二三三

○ 辭令

(各通) 海軍大尉 石崎 鉄吉(風早)  
海軍中尉 矢島 勝磨(同)  
特務艦風早審議委員ヲ命ス(海軍艦政本部)

○ 雜款

○郵便物發送先  
宛先ハ下段ノ通記載ノコト但シ( )内ハ記載セザル  
コト

一 萩風(第四驅逐隊司令)

横須賀局氣付(第十軍用郵便  
所經由)萩風

一 第六警備隊

吳局氣付(第二十五軍用郵便  
所經由)「七參六〇七六〇」

同 スンバ島派遣隊

同 (同)

同 スンバワ島派遣隊

同 (同)

同 ロンボツク島派遣隊

同 (同)

同 バリ島派遣隊

同 「七參八七六〇七四八」  
同 「七參四七六〇七四八」

一 望月

横須賀局氣付(第十二軍用郵  
便所經由)望月

一 第九三六航空隊

佐世保局氣付  
「一壹九 一貳四」

一 春風

四月末日迄吳局氣付(第二十  
六軍用郵便所經由)春風

一 有馬丸

横須賀局氣付(第十軍用郵便  
所經由)有馬丸

一 第三十九哨戒艇

門司在勤海軍武官府氣付第三  
十九哨戒艇

一 第五五二航空隊

館山航空隊氣付「ウ貳〇四」

一 第一百燃料廠ニユー

ギニア調査隊  
吳局氣付(第二十八軍用郵便  
所經由)

「七四貳七壹壹七七八」

○ 正誤

三月十日附公報(部内限) 辭令欄二三五頁「佐佐藤  
ハ一佐藤 佐」ノ誤

○本日普通公報發行セズ

# 海軍公報

(部内限) 第四千三百四十號

昭和十八年三月十五日(月)

## 海軍大臣官房

### ○ 週 牒

官房經第三〇二號

昭和十八年三月十三日

海軍諸例  
則登載

海軍省 副官

關係各廳長殿

行賞一時賜金ノ請求手續ニ關スル件通知

曩ニ賞賜物件傳達方法ニ關シ昭和十七年官房第七八九六號ヲ以テ通知致候處賜金ノ請求手續ニ付テハ海軍省所屬支那事變一時賜金取扱手續第三條ノ規定ニ拘ラズ留守宅家族ヲシテ市區町村長ノ證明ヲ受ケタル賜金請求書(本人ノ官氏名ノ側ニ其ノ家族ノ續柄及氏名ヲ記載ス)ヲ直接海軍省經理局賜金國庫債券取扱官吏ニ送付セシムルコトニ定メラレ候

追テ右ノ趣旨ヲ各留守宅家族ニ周知セシムル爲御沙汰書ヲ留守宅ニ送付スルニ際シ之ガ取扱ニ關スル說明書ヲ同封致スベク候

(参照) 昭和十八年二月二日海軍公報

經物第三十五號

昭和十八年三月十三日

海軍省 經理局長

關係各廳長殿

前金拂又ハ概算拂契約相手方ニ關スル件  
通知

昭和十七年經物第一三五號第一第二項ニ依ル首題ノ件  
左記ノ通承認致候  
記

社 名	所 在 地
合名會社浪速貿易商會	東京市下谷區長者町二ノ一六
株式會社齋藤製作所	東京市品川區大井鮫洲町九〇
有限會社東京福祿商會	東京市神田區紺屋町一一
社 大日本木材防腐株式會	名古屋市中港區千代字二ノ割七〇六ノ一

海軍公報(部内限) 第四千三百四十號 昭和十八年三月十五日

二三五



海軍公報(部内限) 第四千三百四十號 昭和十八年三月十五日

二三六

日産農林工業株式會社	東京市芝區田村町一ノ二
東北重工業株式會社	秋田市川尻町字石倉向二二
東富電機株式會社	東京市芝區白金三光町九五
勝山鍛造機株式會社	大阪市大正區南恩加島町四七
渡邊(義明)製鐵所	東京市蒲田區糺谷町二ノ五八
合資會社濱中商店	大阪市東淀川區國次町九九六
八洲鐵工株式會社	○大阪市西淀川區加島町一三七
理研電化工業株式會社	静岡市曲金二ノ一〇〇
合資會社東邦鐵鋼所	東京市蒲田區糺谷町五ノ一二六八
<b>○雜款</b>	
○郵便物發送先宛先ハ下段ノ通記載ノコト但シ( )内ハ記載セザルコト	
一 南陽	佐世保局氣付(第四軍用郵便所經由)南陽
一 早苗	門司武官府氣付早苗

○本日普通公報發行セズ

# 海軍公報

(部内限) 第四千三百四十一號

昭和十八年三月十六日(火)

海軍大臣官房

## ○ 辭 令

判 決

海軍大尉 高野 正好

同 林 正

同 新宅 恭二

同 今村 喜典

同 安永 稔

同 清水 善治

同 田中 次夫

同 片岡 亮平

同 上村 嵐

同 座光寺 一好

舞鶴鎮守府軍法會議判士ヲ命ス(海軍省)

海軍中佐 玉藤 勇

第一課勤務ヲ命ス(海軍省人事局)

## ○ 判 決

海軍公報(部内限) 第四千三百四十一號 昭和十八年三月十六日

二三七

海軍公報(部内限) 第四千三百四十一號 昭和十八年三月十六日

二三八

○雜款

○普通軍事教育圖書  
昭和十八年二月中納庫セル普通軍事教育圖書左ノ如シ  
(海軍文庫)

圖書名	標記番號	類別
鑄造作業標準	海軍省教普 第千四百六十七號	備品
木型と其製作	海軍省教普 第千四百七十三號	備品
南方共榮圈の全貌	海軍省教普 第千七百三十一號	備品
武士道全書 第八卷	海軍省教普 第千六百九十五號	備品
安式一號轉輪羅針儀教範	海軍省教普 第千七百二十一號	消耗品
須式五型改二型轉輪羅針儀教範	海軍省教普 第千七百二十一號	消耗品
世界興廢 東洋戰史、太平洋 大戦史 侵略史 3	海軍省教普 第千六百八十號	消耗品
海軍七十年史談		消耗品
阿片戰爭		消耗品

<p>○郵便物發送先 宛先ハ下段ノ通記載ノコト但シ( )内ハ記載セザルコト</p> <p>一 第二十四設警隊 一 第二十四特根 一 第二十四通信隊 一 第九三四航空隊 一 第四警備隊</p> <p>友鶴、雉、億洋丸、 万洋丸、大興丸、 第十七昭南丸、第 五拓南丸、第六號 驅潛艇、第三十六 共同丸、第三、第 四掃海艇、第百二、 百三、百十一、百 十二、百十三號驅 潛艇、第百九、百 十、百十一、百十 二、百十三號魚雷 艇</p> <p>吳局氣付(第二十九軍用郵便 所經由)「七貳參 七七貳」 同(第二十八軍用郵便 所經由)「七四〇 七貳壹」 同(同)「七四〇 七貳貳」 同(同)「七四〇 七五九」 同(同)「七壹貳 七參六」</p> <p>友鶴、雉、億洋丸、万洋丸、 大興丸、第十七昭南丸、第 五拓南丸、第六號驅潛艇、 第三十六共同丸、第三、第 四掃海艇、第百二、百三、 百十一、百十二、百十三號 驅潛艇、第百九、百十、百 十一、百十二、百十三號魚 雷艇</p>	<p>一 運 佐世保局氣付(第一軍用郵便 所經由)運</p> <p>當隊宛郵便物ハ自今左ニ依リ發送相成度 尙當隊各艦ニ關係アル書類ハ寫ヲ各艦宛直送ヲ得度 横須賀郵便局經由 第三十六海軍軍用郵便所氣付 司令宛 秋風 隊機關長、軍醫長、主計長宛 太刀風 (第三十四驅逐隊)</p> <p>○事務所設置 第十三號掃海特務艇艇裝具事務所ヲ三月六日下關市彦 島三菱造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ</p> <p>○事務所移轉 中ノ關海軍通信學校(假稱)設立準備委員事務所ハ二 月二十二日左ニ移轉セリ 防府市中ノ關町 海軍安川大佐事務所 電話市内 八八七番 追テ速達料金ハ區域外ニ付留意相成度</p>
---	---

海軍公報(部内限) 第四千三百四十一號

昭和十八年三月十六日

二三九

# 海軍公報

(部内限) 第四千三百四十二號

昭和十八年三月十七日(水)

## 海軍大臣官房

### ○令 達

官房艦機密第一〇四八號

昭和十八年三月六日

内令提  
要登載

海軍大臣

工作物タル有線通信施設保守實施要領左ノ通定ム

記

一、工作物タル有線通信施設機器及線路(以下單ニ機器及線路ト略稱ス)ノ保守ハ本要領ニ依リ之ヲ實施スルモノトス

二、本要領ニ於テ保守トハ概ネ左ノ諸項ヲ謂フ

(イ) 機器及線路設備ノ保存手入

(ロ) 機器ノ調整

(ハ) 機器及線路設備ノ定期試験及點檢(定期巡廻ヲ含ム)

(ニ) 線路設備ニ對スル支障物ノ除去

(ホ) 機器及線路設備ノ障礙修理

(ハ) 機器及線路老朽減損部分ノ引替

(チ) 電話機設置場所變更

(リ) 支障電柱等ノ移轉工事

(ニ) 不良豫備品又ハ撤去品等ノ修繕

三、機器及線路ノ保守ハ當該造修擔任海軍工作廳(以下單ニ擔任廳ト略稱ス)之ヲ擔任スルモノトス

四、各擔任廳擔任區域ニ一乃至數個ノ保守區ヲ置ク

各保守區ヲ適當ニ分割シ之ニ保守分區ヲ置ク

五、擔任廳ハ各保守區及保守分區內適當ナル交換所ニ

(擔任廳所在地ノ保守區ニ在リテハ當該擔任廳ニ)

夫々左ノ保守員ヲ常駐セシメ機器及線路ノ保守ニ任

ゼシムルモノトス

職名	任務
保守區主任	保守區全般ノ機器及線路ノ保守ニ任ズ
技術的事項ニ關シ當該保守區內保守分區ノ保守員ヲ區處ス	

海軍公報(部内限) 第四千三百四十二號 昭和十八年三月十七日

守 區		保 守 分 區	
保守用器材ノ取扱主任ニ任ズ	保守係長	保守分區主任	保守主任
保守區主任ノ命ヲ承ケ機器又ハ線路ノ保守ヲ分擔ス	保守手	保守分區ノ機器及線路ノ保守ニ任ズ	保守用器材ノ取扱主任ニ任ズ
		機器又ハ線路ノ保守ニ從事ス	機器又ハ線路ノ保守ニ從事ス

六 前號ニ依ル保守員ハ一般服務ニ關シテハ其ノ駐在交換所ヲ管理スル官衙部隊又ハ學校長ノ命ヲ承クルモノトス

七 保守區主任及保守分區主任ハ其ノ分擔區域内交換所ノ所長ト常ニ密接ナル連絡ヲ保持スルモノトス

八 長距離市外線ノ保守ハ部外工事局等ニ委託スルコトヲ得ルモノトス此ノ場合其ノ都度之ヲ海軍大臣ニ報告スルモノトス

○ 通 牒

兵備三機密第一一〇號  
昭和十八年三月十七日  
海軍省兵備局長

各鎮守府  
各警備府  
各艦隊 參謀長殿

徵備船舶名變更ノ件申進  
徵備船舶中同ジ船名ノモノハ從來特設艦船ニ付テノミ改名ノコトトセラレ居ル處今後ハ特設艦船ニ非ザル海軍省徵備船ニ付テモ同様改名ノコトトセラレ現徵備船ニ付別表ノ通定メラレ候  
(別表添)

軍需機密第一一五八號  
昭和十八年三月十五日  
海軍省軍需局長

各海軍軍需部長  
各特設海軍軍需部長 殿

「ガス」容器貸與並ニ整理ニ關スル件通牒  
昭和十八年達第四八號ニ依リ各種「ガス」容器取扱規則ノ一部改正相成候處首題ノ件ニ關シテハ當分ノ間左記ニ依リ處理相成度

記

- 一 各海軍軍需部長ハ自己保管ノ「ガス」容器ニ對スル別紙様式ノ來歴ヲ相互ニ通知シ置クモノトス
- 二 各海軍軍需部長ハ輸送ノ都合ニ依リ他海軍軍需部保管ノ容器ヲ還納受シタル場合ハ其ノ數量、容器番號等ヲ還納票ニ添附シ保管海軍軍需部ニ通知シ現品ハ一時預リトシテ整理シ置キ必要ノ場合ハ之ヲ艦船部隊ニ貸與シ差支ナキモノトス
- 三 各海軍軍需部長ハ第二項ニ依リ通知ヲ受ケタル場合ハ該通知書ヲ以テ各地送達トシテ整理シ置キ其ノ容器ヲ貸出シタル場合ハ請求票ニ容器番號等ヲ記入ノ上之ヲ保管海軍軍需部ニ送付スルモノトス

(別紙添)

艦本第八號ノ一〇六八

昭和十八年三月十七日

海軍省 經理局長  
海軍 艦政本部長

關係各廳長殿

日鐵鋼材提示及註文整理ニ關スル件照會

日本製鐵株式會社八幡製鐵所(以下單ニ日鐵ト稱ス)

ニ對スル鋼材ノ提示及註文中昭和十八年三月末日迄ニ未製作ノ分ニ付テハ昭和十五年四月艦本機密第八〇〇四號ニ拘ラズ左記ニ依リ整理ノコトニ取計相成度

記

- 一 日鐵ニ對スル十七日迄ノ提示及同提示ニ對スル註文ニ係ル鋼材ニシテ昭和十八年三月末日迄ニ製作ニ着手セザル分ニ付テハ該提示及註文ヲ解除スルモノトス
- 二 日鐵ヲシテ前號該當ノモノニ付各註文元別約定別ニ調査ノ上調査表二通ヲ調製シ四月十五日迄ニ各註文元及在八幡首席海軍監督官ニ提出セシムルモノトス
- 三 各註文元ハ前號調査表ニ依リ五月十五日迄ニ註文取消手續ヲ爲スモノトス
- 四 各註文元ハ前號ニ依リ取消シタルモノノ中是非共調達ヲ要スルモノハ十八年度需要トシテ更メテ註文手續ヲ爲スモノトス
- 五 在八幡首席海軍監督官ハ整理ノ狀況ヲ五月末日迄ニ艦政本部長ニ報告スルト共ニ關係部局長ニ通報スルモノトス

海軍公報(部内限) 第四千三百四十二號

昭和十八年三月十七日

二四三

○表彰

賞状

從五位勳四等 江口 孝

「イソオクタ」製造装置ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ徽章竝ニ金七百圓ヲ授與ス

正八位勳六等 柳川 吾郎

「イソオクタ」製造装置ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ徽章竝ニ金六百圓ヲ授與ス(以上三月八日海軍大臣)

○辭令

海軍大佐 渡邊 敬之助(艦本監)

海軍中佐 金田 清之(新月)

(各通) 海軍大尉 本田 仁一(同)

海軍技術中佐 本多 政徳(艦本監)

海軍技師 寄田 豊(同)

驅逐艦新月審議委員ヲ命ス

海軍大佐 朝倉 豊次(艦本)

(各通)

海軍中佐 小田原 憲一(松輪)

同 南 六右衛門(軍務)

同 岩城 繁(軍令)

海軍少佐 川又 政信(艦本)

海軍大尉 梅津 富吉(松輪)

海軍中尉 鳥飼 達海(同)

同 西田 安宏(同)

海軍技術大佐 加藤 恭亮(艦本監)

海軍技術大尉 中田 富次郎(艦本)

海軍豫備中尉 小谷 俊雄(松輪)

海軍技師 三原 嘉徳(艦本監)

海防艦松輪審議委員ヲ命ス

海軍大佐 塚野 晋(艦本監)

海軍中佐 松林 元哉(佐渡)

海軍中尉 西辻 林藏(同)

海軍豫備中尉 岡村 繁(同)

海軍技師 濱村 雅男(艦本監)

同 菊池 正人(同)

海防艦佐渡審議委員ヲ命ス

海軍大佐 朝倉 豊次(艦本)

同 小山 敏明(同)



<p>(各通)</p> <p>海軍中佐 青木 久治(隱岐)</p> <p>同 大崎 行三(艦本監)</p> <p>海軍技術大尉 小介 龍朗(同)</p> <p>海軍豫備中尉 鈴木 實(隱岐)</p> <p>海軍技師 宇津見 謙介(艦本監)</p>	<p>海防艦隱岐審議委員ヲ命ス</p> <p>海軍大佐 朝介 豊次(艦本)</p> <p>海軍中佐 末永 直二(同)</p> <p>(各通)</p> <p>海軍豫備大尉 大里 勇哉(二六掃)</p> <p>海軍技師 關 甚作(艦本監)</p> <p>同 遠藤 朝雄(同)</p> <p>同 菊池 正人(同)</p>	<p>第二十六號掃海艇審議委員ヲ命ス</p> <p>海軍中佐 三戸 文章(吳廠)</p> <p>呂號第三十五潜水艦審議委員ヲ命ス</p> <p>(各通)</p> <p>海軍中佐 岡 寅雄(艦本)</p> <p>同 伊藤 喜六(吳廠)</p> <p>呂號第三十五潜水艦審議委員ヲ免ス(以上三回海軍艦政本部)</p>
<p>○ 雜 款</p>		
<p>○司令驅逐艦變更</p> <p>第八驅逐隊司令ハ二月二十一日司令驅逐艦ヲ荒潮ニ變更セリ</p> <p>○郵便物發送先</p> <p>自今左ニ依リ發送相成度</p>	<p>司令、隊軍醫長、隊機關長宛 朝潮</p> <p>主計長宛 荒潮</p> <p>(横須賀郵便局氣付 ッ一〇五)</p> <p>追而滿潮ハ當分分離行動中ニ付同艦ニ關係アルモノハ同艦宛寫ヲ送付得度</p> <p>(第八驅逐隊)</p>	<p>三月三十日迄ニ到達見込ノモノ</p> <p>横濱市磯子區海軍航空技術廠支廠内</p> <p>三月三十一日以後到達見込ノモノ</p> <p>宮城縣宮城郡多賀城村</p> <p>(空A廠(假稱)設立準備事務所)</p> <p>司令及隊宛 大波</p> <p>軍醫長宛 清波</p> <p>隊機關長、主計長宛 長波</p> <p>尙當隊概ネ分離行動中ニ付各驅逐艦宛書類ハ各艦ニ直送相成度</p> <p>(第三十一驅逐隊)</p>

海軍公報(部内限)第四百三十四十二號

昭和十八年三月十七日

二四五

海軍公報(部内限) 第四千三百四十二號

昭和十八年三月十七日

二四六

外第二十九頁田平留市ノ判決ハ孰モ取消

○各種練習生採用試験問題送付ノ件依頼  
首題ノ件當隊開隊以來全然送付無之候條自今試験問題  
配付ノ際ハ送付方相煩度

追而今回未發送ノ分ハ至急最近便ニテ送付方御取計  
相成度

送付先 横須賀郵便局氣付 ヲ壹貳〇 ヲ壹九貳  
(第一根據地隊)

○事務開始

玉波艦裝具事務所ハ二月二十六日大阪藤永田造船所ニ  
設置シ事務ヲ開始セリ

呂號第百八潜水艦裝具事務所ハ三月十日川崎重工業  
株式會社艦船工場内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第二六號掃海艇裝具事務所ハ三月五日横濱海軍監督  
官事務所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○訂正

一月二十六日附公報(部内限) 辭令欄八〇頁上段二十  
一行目「大原武夫」ノ發令月日「昭和十七年十二月二  
十五日」ハ「十一月二十五日」ニ訂正

○取消

一月二十六日附公報(部内限) 辭令欄八一頁下段二行  
目「若崎秀雄」ノ辭令、三月五日附公報(部内限) 號

(別表)

(昭和十八年三月十七日海軍公報(部内限))

特設艦船ニ非ラザル徴備船ノ改名表													
配屬	用途	固有船名	船舶番號	改名									
十一特工	救難	秋津丸	四七二八七	い號 秋津丸									
支那方面	雑用	榮福丸	三七九一四	い號 榮福丸									
二南遣	同	蛭子丸	四〇一八八	い號 蛭子丸									
聯合艦隊	同	蛭子丸	三六五八二	ろ號 蛭子丸									
同	同	春日丸	一六三三六	い號 春日丸									
支那方面	同	春日丸	三三五五〇	ろ號 春日丸									
同	同	春日丸	三五六八九	は號 春日丸									
廈門警	同砲代	春日丸	二八二四四	に號 春日丸									
海軍省	雑用	神風丸	四三二〇二	い號 神風丸									
支那方面	同	第一海洋丸	三五九〇三	い號 第一海洋丸									
二遣支	同	菊丸	三七三七四	い號 菊丸									
海軍省	油	紀洋丸	四〇七七一	い號 紀洋丸									
支那方面	雑用	第三共榮丸	四三一一九	い號 第三共榮丸									
同	同砲代	第三共榮丸	三七五五二	ろ號 第三共榮丸									
同	雑用	金比羅丸	三三八三一	い號 金比羅丸									
聯合艦隊	同	榮丸	四七七六五	い號 榮丸									
同	同	榮丸	四九二六九	ろ號 榮丸									
海軍省	同	神光丸	四七三八五	い號 神光丸									
支那方面	同砲代	昭洋丸	二九九〇六	い號 昭洋丸									
聯合艦隊	雑用	住吉丸	四八九四三	い號 住吉丸									
同	同	住吉丸	三六〇三八	ろ號 住吉丸									
同	同	住吉丸	四六七八〇	は號 住吉丸									
支那方面	同	盛運丸	三八一九八	い號 盛運丸									
佐警	糧	高砂丸	四六二〇九	い號 高砂丸									
支那方面	雑用砲代	高砂丸	三三八一四	ろ號 高砂丸									
南西方面	雑用	高雄丸	臺灣一六七	い號 高雄丸									
支那方面	雑用砲代	大安丸	四一八二九	い號 大安丸									
聯合艦隊	雑用	長榮丸	四一一四九	い號 長榮丸									
同	同	天龍丸	三九九〇七	い號 天龍丸									
海南警	同	第二圖南丸	四一七七六	い號 第二圖南丸									
支那方面	同	那智丸	四一七七二	い號 那智丸									
四艦隊	同	第五日之出丸	三七二八二	い號 第五日之出丸									
二遣支	同	第二伏見丸	四八〇二二	い號 第二伏見丸									
支那方面	同	辨天丸	三三八〇八	い號 辨天丸									
同	同砲代	辨天丸	三五九〇七	ろ號 辨天丸									
十一特工	救難	北安丸	四八八一五	い號 北安丸									
支那方面	雑用	萬榮丸	三七九一〇	い號 萬榮丸									
同	同	牟婁丸	四四五〇四	い號 牟婁丸									



海軍公報 (部内限) 號外

海軍大臣官房

昭和十八年三月十七日(水)

○辭令

○昭和十七年六月十六日

海軍少將 圓山英勅

敍從四位(特旨ヲ以テ位一級被進)

○昭和十七年六月二十日

海軍理事官 石村始吉

敍從七位

○昭和十七年六月二十八日

海軍中佐 大河原 肇

敍從五位(特旨ヲ以テ位一級被進)

○昭和十七年七月一日

海軍特務大尉 箕輪茂三郎

敍正六位

海軍機關大尉 橋本 霽

(各通)

海軍機關特務中尉 久保田健吉

海軍看護特務中尉 藏本 房助

敍從六位

海軍主計特務中尉 植田 和三郎

(各通)

海軍特務中尉 竹内 治道

同 佐藤 三郎

同 八幡 八十平

海軍機關特務中尉 松田 孫七

海軍主計特務中尉 関 徳二

敍正七位

海軍書記 岡本 鉄太郎

敍從七位

海軍特務少尉 山本 十二郎

敍正八位

海軍機關大佐 高橋 武

敍從五位

敍正五位(特旨ヲ以テ位一級追陞セラル)

○昭和十七年七月六日

海軍少佐 濱 深夫

敍正六位(特旨ヲ以テ位一級追陞セラル)

○昭和十七年七月十日

海軍中佐 宮田 晏

敍正六位

敍從五位(特旨ヲ以テ位一級追陞セラル)

海軍公報 (部内限) 號外

○昭和十七年七月十四日

海軍機關大佐 鹽谷 儉  
海軍豫備機關大尉 鈴木 一郎

敍正七位

○昭和十七年七月十五日

(各通)

海軍大佐 石井 敬之  
同 三好 輝彦  
同 黒木 剛一  
同 關 郁乎  
海軍機關大佐 川岡 三十郎

敍正五位

(各通)

海軍中佐 堤 繁 春  
海軍軍醫中佐 日下志 純一  
海軍司政官 大森 輝雄  
同 二木 茂一郎  
同 指田 孝平  
同 西山 伊織  
海軍技師 三堀 三郎

敍從五位

(各通)

敍正六位

海軍特務大尉 海老原 豊次  
海軍主計特務大尉 佐藤 退三  
海軍司政官 丸山 鼎一  
同 加藤 寛一

(各通)

海軍特務大尉 武井 廣  
同 水沼 孝助  
同 渡邊 慶太郎  
同 藤田 三五郎  
同 谷本 良太郎  
同 勝木 石之助  
同 小澤 秀三  
同 福井 豊次郎  
同 大塚 三平  
同 石井 百太郎  
海軍整備特務大尉 小野 章造  
同 小倉 市市  
同 野口 馬吉  
海軍機關特務大尉 芳賀 峯次郎  
同 前田 新三郎  
同 田中 五一



○昭和十七年七月十八日

敍正六位

海軍技師 松尾 元治

○昭和十七年八月一日

(各通)

海軍中將 坂本 伊久太  
同 山本 弘毅

敍正四位

海軍特務大尉 尾形 正志  
海軍特務中尉 山越 石松

(各通)

海軍主計特務中尉 今井 孫三

敍從六位

海軍理事官 櫻原 勉

(各通)

同 森合 重英

同 德永 重三郎

同 野澤 賢治

同 九嶋 政治

同 神谷 義城

敍從七位

○昭和十七年八月六日

(各通)

海軍技師 工藤 幸介

敍正五位 (特旨ヲ以テ位一級被進)

同 大谷 文太郎

○昭和十七年八月十一日

海軍主計特務大尉 船越 儀三郎  
敍正六位 (特旨ヲ以テ位一級追陞セラル)

○昭和十七年八月十三日

海軍整備特務少尉 木原 傳  
敍正八位

○昭和十七年八月十五日

海軍少將 五藤 存知

敍從四位

海軍技師 工藤 久夫

敍從五位

海軍特務大尉 藤井 伍市

海軍特務中尉 奥村 慶男

敍從六位

海軍特務中尉 岩松 危之助

同 長嶋 留藏

敍正七位

海軍兵曹長 近藤 光次

同 保科 珍平

同 佐藤 虎二

同 出水田 純

(各通)



海軍公報 (部内限) 號外

同	加藤木喜之介	海軍看護兵曹長	佐藤久六
同	北市次	海軍書記	
海軍少尉	林幹人		
同	高橋完爾		
同	久家三夫		
海軍豫備少尉	八角保		
同	齋藤守人		
同	松本吉春		
同	立川汎		
同	林至		
同	西俣敬次郎		
同	遠藤正紀		
同	早川音也		
海軍豫備機關少尉	中村正義		
同	阿部寅義		
同	吉田正博		
同	古川源太郎		
同	岸根一雄		
同	松本正午		

  

同	高木次郎		
同	上野義男		
同	吉澤正大		
同	宮川市三		
同	荻野卓三		
同	鈴木陸郎		
同	藤崎希行		

  

海軍中尉	藤崎希行		
------	------	--	--

  

海軍機關大佐	木原直孝		
--------	------	--	--

  

海軍特務大尉	清田榮松		
--------	------	--	--

  

海軍中佐	渡邊謙次郎		
------	-------	--	--

  

海軍機關中佐	竹内雄二		
--------	------	--	--

  

海軍軍醫中佐	橋本里吉		
--------	------	--	--

  

海軍主計中佐	田中東洋男		
--------	-------	--	--

(各通)

敍從七位

(各通)

敍正八位

○昭和十七年八月十九日

敍從七位

○昭和十七年八月二十一日

敍從四位(特旨ヲ以テ位一級追陞セラル)

○昭和十七年八月三十日

敍從六位(特旨ヲ以テ位一級追陞セラル)

○昭和十七年九月一日

敘從五位

(各通)

敘正六位

(各通)

海軍少佐	青塚一常吉
海軍特務大尉	中田市次郎
同	鈴木政之進
同	町田悟郎一
同	北本甚作
海軍機關特務大尉	林市太郎
海軍主計特務大尉	石井峯次
海軍豫備少佐	太田義夫
同	小谷正春
同	小林正治
同	北彌三郎
同	篁源三郎
同	森崎孟男
海軍豫備機關少佐	狩野信吉
同	岩村孝教
海軍大尉	東田喜悅
海軍軍醫大尉	久野順二郎
海軍特務大尉	鈴木圓介
海軍主計特務大尉	熊本長吉

敘從六位

海軍特務中尉	古川久吉
海軍機關特務中尉	永井直正
海軍主計特務中尉	標俊平
海軍豫備大尉	安田征郎
同	正島輝一
同	齋藤方郎
同	重松正義
同	山川正巖
同	青山三郎
同	荒牧照
同	平田信男
同	小林直一
同	重富秀男
同	猿渡登
同	雪吹周重
同	寛四郎
同	渡部重孝
同	竹添常磐
同	河村勝
同	江代謹治

海軍公報 (部内限) 號外

同 同

細 登 英 二  
永 井 木 次 郎  
柴 田 武 雄  
沖 村 靜 雄  
明 石 四 郎  
佐 々 木 喜 一  
藤 井 二 郎  
川 副 克 巳  
永 瀬 誠  
吹 上 清 光  
廣 田 章  
高 谷 正  
久 瀬 川 晋 二  
石 村 芳 雄  
福 永 光 雄  
手 塚 慶 二 郎  
松 本 輝 雄  
吉 野 輝 彦  
進 藤 寛 治  
蒔 田 三 郎  
平 野 文 一

同 同

山 本 新 七  
瀧 田 三 郎  
大 成 眞 爾  
海 老 原 正 男  
松 本 竹 治  
鈴 木 正 雄  
桐 生 末 吉  
尼 子 竹 一  
島 崎 侃  
是 本 賢 一  
川 島 淳  
松 本 定 義  
金 尾 學  
河 野 通 正  
石 川 貞 雄  
麻 野 利 男  
仁 平 仁 作  
柴 田 正 義  
佐 藤 善 太 郎  
岡 崎 寛  
椎 原 安 武

七









○昭和十七年九月十日

海軍少佐 宗次郎

敍從六位

○昭和十七年九月十一日

海軍理事官 久村頼藏

敍從七位

○昭和十七年九月十四日

海軍中將 浮田秀彦

(各通)

同 茂泉 慎一

敍正四位 (特旨ヲ以テ位一級被進)

海軍少將 岩越 寒季

(各通) 海軍藥劑少將 清水 辰太

○昭和十七年九月十五日

海軍大將 吉田 善吾

敍正三位

海軍中將 稻垣 生起

敍從四位

敍正四位 (特旨ヲ以テ位一級追陞セラレ)

海軍大佐 中村 寛

敍從四位

(各通)

海軍大佐 土井直治

敍正五位

同 緒方 勉

敍從五位

海軍中佐 土山 健一

敍正六位

海軍造兵中佐 岡田 又雄

海軍特務大尉 福富 績

海軍大尉 岡積 清治

海軍軍醫大尉 藤野 重雄

同 小野田 肇

同 小林 繁

同 今泉 朗

同 八太 通夫

同 高田 一郎

同 野村 俊賢

同 河野 左宙

同 北島 義雄

同 三沢 銚介

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

(各通)

敍從六位



海軍公報 (部内限) 號外

(各通)

海軍特務中尉	上野 力藏
同	千葉 重五郎
同	榎本 四郎吉
同	高橋 正太郎
同	田邊 清治
同	中谷 武夫
同	板垣 利一
同	中西源右衛門
同	水谷 金一郎
同	窪田 源
同	村上 森一
同	藤岡 至
同	小方 森樹
同	河野 圓次郎
同	日野 虎正
同	西田 登一
海軍機關特務中尉	江原 順之助
同	橋本 廣治
同	宮本 信二
同	辻 強
海軍主計特務中尉	田中 時四郎

敍正七位

同	山本 象太郎
同	春内 喜一
海軍機關特務少尉	森 危松
海軍技師	稻垣 武
海軍兵曹長	井田 松次郎
同	森田 榮吉
同	畠山 藤三
同	佐藤 音吉
同	前崎 治郎
海軍機關兵曹長	宮越 榮
海軍主計兵曹長	梅津 晋治
海軍技師	中原 茂
同	大島 久次
同	中島 政清
同	柴田 高次
同	添田 鉄之助
同	小川 貞夫
同	齋藤 博
同	下内 八郎
同	桑島 忠

二三

(各通)

海軍技師 福澤 嘉吉  
 同 松原 英夫  
 同 白井 實  
 同 小野田 雄次  
 同 田中 教人  
 同 大沼 忠雄  
 同 片岡源一郎  
 同 原田 信雄  
 同 南 濤 遂  
 同 篠田 治男  
 同 石橋 爲三  
 同 久保 一幸  
 同 原 信治郎  
 同 久保 芳雄  
 同 小森 寅一  
 同 万田 達彦  
 同 河野 不可止  
 同 海軍技師 石田 悦二

○昭和十七年九月二十一日  
 海軍特務大尉 遠藤 喜代八

敍從七位

敍從六位

敍正八位

○昭和十七年九月二十七日

海軍特務少尉 古泉 快三

敍從五位 (特旨ヲ以テ位一級追陞セラル)

○昭和十七年九月三十日

海軍中佐 島 忠三郎

敍從五位

敍正五位 (特旨ヲ以テ位一級追陞セラル)

○昭和十七年十月二日

海軍機關大佐 吉田 秀樹

敍正三位

海軍大將 塩澤 幸一

敍從四位

海軍大佐 宮本 定知

(各通)

海軍大佐 成田 茂一

敍正五位

同 清水 柳太郎

敍從五位

海軍中佐 古閑 孫太郎

海軍少佐 高橋 雄五郎

海軍軍醫大尉 小幡 健吉



○昭和十七年十月九日

海軍理事官 石丸 五郎

敘從七位

○昭和十七年十月十五日

海軍大佐 加藤 興四郎

海軍機關大佐 三浦 盛衛

(各通)

同 根本 金次

海軍軍醫大佐 長谷川 静一

敘正五位

(各通)

海軍機關中佐 佐々木 綱雄

敘從五位

海軍主計少佐 嶋尾 平七

敘正六位 (特旨ヲ以テ位一級被進)

海軍主計少佐 伊丹 廣

敘正六位

海軍特務大尉 岩間 甚枝

海軍軍醫大尉 木村 梢

海軍特務大尉 吉岡 逸喜

同 北坂 秀吉

同 大栗 新吉

(各通)

同 海軍整備特務大尉 澤 競市

海軍機關特務大尉 高柳 新八

海軍主計特務大尉 岩田 茂

同 漆畑 作次郎

同 森野 鶴松

同 原田 政之

同 本田 仁藏

海軍特務中尉 飛奈 角藏

同 金澤 覺

同 前田 和一

同 阿部 軍記

同 吉永 岩次

同 打和 喜太郎

同 武藤 重次郎

海軍機關特務中尉 三好 巽

海軍主計特務中尉 藤本 喜市

海軍特務少尉 田島 節夫

海軍技師 兼弘 京一

同 寺本 鶴夫

敘正七位

(各通)

敘從六位

海軍兵曹長 兼弘 京一

同 寺本 鶴夫

同 寺本 鶴夫

同 寺本 鶴夫

同 寺本 鶴夫

同 寺本 鶴夫

同 寺本 鶴夫

同 寺本 鶴夫

同 寺本 鶴夫

同 寺本 鶴夫

同 寺本 鶴夫

同 寺本 鶴夫

同 寺本 鶴夫

同 寺本 鶴夫

同 寺本 鶴夫

同 寺本 鶴夫





海軍公報 (部内限) 號外

同 同

黒木 健夫 三角 忠義 中村 正平 村上 正秀 小池 利一 福山 義雄 宮川 治水 今井 清治 小師 準一 岡崎 喜八郎 三神 章 霜山 光雄 青井 良也 宇野 貞秋 鈴木 勳 田川 勝 坂井 敏男 井垣 快彦 大隈 良通 森上 統之亮 名倉 史郎

彼正八位

○昭和十七年十月二十八日

同 同 同 同 同 同

本岡 重七 平木 茂 藤井 太一 町田 文男 菊本 日出夫 杉村 脩 志甫津 慶次

海軍機關大佐

吉村 誠一郎

(各通)

同 同 同

今井 滋雄 宮下 博雄 林 敏之 岡田 行二

彼從四位(特旨ヲ以テ位一級被進)

○昭和十七年十月三十一日

海軍技師

鈴木 只重 長谷川 鏡次郎

(各通)

海軍兵曹長

萩原 徳市

彼從七位

海軍主計兵曹長

福岡 清

○昭和十七年十一月十日

海軍大尉 市丸 甚三郎  
敍正六位 (特旨ヲ以テ位一級追陞セラル)

○昭和十七年十一月十一日

海軍中將 谷本 馬太郎  
敍從三位 (特旨ヲ以テ位一級被進)

○昭和十七年十一月十三日

海軍技師 吉田 直  
敍從三位

(各通)

敍正四位

海軍中將 大熊 政吉  
海軍少將 水野 準一

海軍少將 金子 豊吉  
同 千葉 慶藏

同 高塚 省吾  
海軍大佐 山下 茂治

(各通)  
海軍軍醫大佐 杉村 好次  
海軍造兵大佐 西津 龜吉

同 近藤 弗樹  
海軍技師 甚目 雅治  
敍從四位 (特旨ヲ以テ位一級被進)

海軍造兵大佐 福田 健夫  
敍正五位 (特旨ヲ以テ位一級被進)

海軍大尉 前谷 吉夫  
敍正六位 (特旨ヲ以テ位一級被進)

○昭和十七年十二月十六日

海軍技術大佐 藤尾 馨  
海軍教授 森 達雄

同 三品 彰英  
同 伊藤 庸雄

同 加藤 正男  
同 芳村 升

同 山田 正元  
海軍技師 山田 正元

(各通)  
同 工藤 慶策

同 鈴木 爲文  
同 池田 吉二

同 佐藤 清治  
同 末松 茂

同 向坂 五郎  
同 大島 小市

同 柴田 壽正  
敍從五位















2218

(限 内 部)

# 海軍公報 (部内限) 第四千三百四十三號

海軍大臣官房

昭和十八年三月十八日(木)

## ○ 令 種

官房教第二〇號

左ノ各號ニ依リ横須賀海軍砲術學校ニ於テ體操講習ヲ

施行ス

所屬長官ハ第四號ノ講習員ヲ派遣スベシ

昭和十八年三月二日

海 軍 大 臣

### 一 講習科目

海軍體操講習

### 二 講習期間及場所

第一回 自三月十七日 至三月二十七日

第二回 自三月三十日 至四月九日

### 三 横須賀海軍砲術學校

### 四 講習指導官

横須賀海軍砲術學校長

### 四 講習員

### 第一回講習

横須賀鎮守府

從士官以上

櫻嶺守府

同

### 第二回講習

佐世保鎮守府

同

舞鶴鎮守府

同

大湊、大阪、鎮海、馬公各警備府

同

海軍練習聯合航空總隊

同

海軍兵學校

同

海軍機關學校

同

一五名 下士官 三〇名以内

一〇名 同 一〇名以内

八名 同 一六名以内

四名 同 八名以内

一名 下士官 二名以内

六名 下士官 一二名以内

四名 同 八名以内

二名 同 四名以内

海軍公報 (部内限) 第四千三百四十三號

昭和十八年三月十八日

二四七

海軍公報(部内限)第四千三百四十三號 昭和十八年三月十八日

二四八

海軍經理學校

同 一名 同 二名以内

五 旅 費

昭和十八年官房經第七號ニ依リ請求ヲ俟テ別途配付ス

官房人機密第九五號

内令據 要登載

掌電信兵出身ノ特務士官及准士官中昭和十八年七月一日現在員ニ就キ在籍鎮守府司令長官ニ於テ通信牒報要務ニ通曉シ外信傍受又ハ方位測定ノ指揮官タラシムルニ適當ト認ムル者ハ高等科電信術ノ特班ヲ専修シタルモノト看做ス

昭和十八年三月十六日

海軍大臣

官房人機密第九六號

内令據 要登載

高等科電信術練習生又ハ普通科電信術練習生教程ヲ卒業シタル下士官及兵中昭和十八年七月一日現在ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ夫々海軍通信學校教育綱領ニ依ル高等科電信術練習生ノ特班又ハ普通科電信術練習生ノ特班ヲ専修シタルモノト看做ス

昭和十八年三月十六日

海軍大臣

一 高等科電信術練習生教程ヲ卒業シタル者ノ中掌電信兵(特)タルモノ

二 高等科又ハ普通科電信術練習生教程ヲ卒業シタル者ノ中通信牒報業務ニ六月以上従事シ外信傍受又ハ方位測定技術ニ關シ在籍鎮守府司令長官ニ於テ適當ト認ムルモノ

三 普通科電信術練習生教程ヲ卒業シタル者ノ中臨時通信術(普電特)講習ヲ終了シタルモノ

附則

昭和十四年官房機密第一五五號掌電信兵(特)ノ臨時講習並ニ人事取扱ハ昭和十八年六月三十日限り之ヲ廢止ス

官房經機密第一二〇號

昭和十六年官房機密第一一四三七號中左ノ通改正ス

昭和十八年三月十七日

海軍大臣

第一號供給擔任區分中特設設營隊名ノ欄「第百三十一設營隊」ヲ「第三十、第百三十一設營隊」ニ改ム

(參照) 昭和十六年官房機密第一一四三七號ハ特設設營隊ニ要スル



機械器具及材料ノ供給及整理ニ關スル件ナリ(機密會計法  
規類集二二二頁)

○ 辭 令

大久保 楠 衛

徵用中自今年額千八百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇ト  
ス(昭和十七年 海軍省)

山 際 新一郎

徵用中自今年額千七百拾六圓ヲ給シ部内限奏任官待遇ト  
ス(昭和十七年 海軍省)

海軍中尉 内 山 真人

驅逐艦朝風ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦  
隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(昭和十七年 海軍  
省經理局長)

○ 雜 款

○郵便物發送先  
宛先ハ下段ノ通記載ノコト但シ( )内ハ記載セザル  
コト  
一 長月  
横須賀局氣付(第十二軍用郵  
便所經由)長月

一 舊第一航空基地隊殘務整理  
鹿屋航空隊内「ウ壹六參」殘  
務整理

一 木更津市第一航空基地隊  
三月二十三日迄到達見込ノモノ  
横須賀局氣付(第十二軍用郵  
便所經由)清澄丸

一 第一航空基地隊  
清澄丸

一 横須賀局氣付(第十軍用郵便  
所經由)伊第五潛

一 伊第五潛

一 横須賀局氣付  
「ウ壹壹五ウ壹八四」  
館山航空隊氣付

一 第二五二航空隊

一 第二八一航空隊  
「ウ貳四五」

海軍公報(部内限) 第四千三百四十三號 昭和十八年三月十八日